

事業コード	R2-建-新-04		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	通常砂防事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	砂防えん堤工		班 名	砂防班 (tel)018-860-2517
路線名等	水上沢		担当課長名	河川砂防課長 田森 清美
箇所名	横手市大森町八沢木		担当者名	流域防災監(兼)班長 村上 龍巳
プランとの関連	政策コード	01	政策名	県土の保全と防災力強化
	施策コード	01	施策名	災害に備えた強靱な県土づくり
	指標コード	03	施策目標(指標)名	県民の生命と財産を守る安全な地域づくり

1. 事業の概要

事業期間	R3~R7(5年)	総事業費	2.8 億円	国庫補助率	50.00																																																						
事業規模	○ 砂防えん堤1基(H=8.0m L=74.0m)、溪流保全工 L=30.0m																																																										
事業の立案に至る背景	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水上沢は、一級河川雄物川水系上溝川に流下する支川であり、人家3戸、公民館(避難所)、市道90mが保全対象となる土石流危険溪流である。 ○ 当該流域では、平成29年7月豪雨によって流域内で溪岸侵食が生じ、土石流が発生した。溪流には、多くの不安定土砂や流木が堆積しており、今後の豪雨等によって多量の土砂・流木が流出し、甚大な土砂災害をもたらす恐れがある。 ○ 本事業は、人家及び避難所を保全するため、砂防えん堤工等を整備し、土石流災害の防止を図るものである。 																																																										
事業目的	<p>【主たる目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 砂防設備の整備により、下流の人家や避難所(公民館)を保全し、地域の安全・安心な暮らしを確保する。 <p>【保全対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人家3戸 ○ 避難所(公民館) ○ 市道 L=90m ○ 耕地 A=0.09ha 																																																										
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>全 体</th> <th>R 3 年 度</th> <th>R 4 年 度</th> <th>R 5 年 度</th> <th>R 6 年 度 以 降</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>280,000</td> <td>30,000</td> <td>30,000</td> <td>30,000</td> <td>190,000</td> </tr> <tr> <td>経費</td> <td>190,000</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>190,000</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>30,000</td> <td></td> <td></td> <td>30,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>財源</td> <td>60,000</td> <td>30,000</td> <td>30,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>140,000</td> <td>15,000</td> <td>15,000</td> <td>15,000</td> <td>95,000</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>126,000</td> <td>13,500</td> <td>13,500</td> <td>13,500</td> <td>85,500</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>14,000</td> <td>1,500</td> <td>1,500</td> <td>1,500</td> <td>9,500</td> </tr> <tr> <td>事業内容</td> <td></td> <td>地質調査等 詳細設計</td> <td>用地測量 補償調査</td> <td>砂防指定 用地補償</td> <td>砂防えん堤工 溪流保全工</td> </tr> </tbody> </table>						全 体	R 3 年 度	R 4 年 度	R 5 年 度	R 6 年 度 以 降	事業費	280,000	30,000	30,000	30,000	190,000	経費	190,000				190,000	内訳	30,000			30,000		財源	60,000	30,000	30,000			内訳	140,000	15,000	15,000	15,000	95,000	内訳	126,000	13,500	13,500	13,500	85,500	内訳	14,000	1,500	1,500	1,500	9,500	事業内容		地質調査等 詳細設計	用地測量 補償調査	砂防指定 用地補償	砂防えん堤工 溪流保全工
	全 体	R 3 年 度	R 4 年 度	R 5 年 度	R 6 年 度 以 降																																																						
事業費	280,000	30,000	30,000	30,000	190,000																																																						
経費	190,000				190,000																																																						
内訳	30,000			30,000																																																							
財源	60,000	30,000	30,000																																																								
内訳	140,000	15,000	15,000	15,000	95,000																																																						
内訳	126,000	13,500	13,500	13,500	85,500																																																						
内訳	14,000	1,500	1,500	1,500	9,500																																																						
事業内容		地質調査等 詳細設計	用地測量 補償調査	砂防指定 用地補償	砂防えん堤工 溪流保全工																																																						
調査経緯	○ 平成30年度 県単砂防事業 砂防流域調査																																																										
上位計画での位置付け	○ 第3期ふるさと秋田元気創造プランにおける基本政策「県土の保全と防災力強化」を推進																																																										
関連プロジェクト等	○ 特になし																																																										
事業を取り巻く情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国的に雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しており、令和元年の土砂災害の発生件数は1,996件で、統計を開始した昭和57年以降4番目に多い件数を記録している。 ○ 県内においても平成29年7月22~23日の豪雨では、土砂災害による被害が多数発生している。近年、集中豪雨による自然災害が多発しており、ソフト・ハード両面からの対策が重要である。 																																																										
事業効果把握の手法	<table border="1"> <tr> <td>指標名</td> <td colspan="4">土石流危険溪流に対する概成率(%)</td> </tr> <tr> <td>指標式</td> <td colspan="4">対策済み溪流数/土石流危険溪流数(%)</td> </tr> <tr> <td>指標の種類</td> <td colspan="2">○ 成果指標 ● 業績指標</td> <td>低減指標の有無</td> <td>○ 有 ● 無</td> </tr> <tr> <td>目標値 a</td> <td colspan="2">17.7%(R4末)</td> <td>データ等の出典</td> <td>河川砂防課調べ</td> </tr> <tr> <td>実績値 b</td> <td colspan="2">16.9%(R1末)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率 b/a</td> <td colspan="2">95.5%</td> <td>把握の時期</td> <td>令和2年3月</td> </tr> </table> <p>※第3次秋田県豪雪地帯対策アクションプログラムにおける目標値を記載。</p>					指標名	土石流危険溪流に対する概成率(%)				指標式	対策済み溪流数/土石流危険溪流数(%)				指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標		低減指標の有無	○ 有 ● 無	目標値 a	17.7%(R4末)		データ等の出典	河川砂防課調べ	実績値 b	16.9%(R1末)				達成率 b/a	95.5%		把握の時期	令和2年3月																								
指標名	土石流危険溪流に対する概成率(%)																																																										
指標式	対策済み溪流数/土石流危険溪流数(%)																																																										
指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標		低減指標の有無	○ 有 ● 無																																																							
目標値 a	17.7%(R4末)		データ等の出典	河川砂防課調べ																																																							
実績値 b	16.9%(R1末)																																																										
達成率 b/a	95.5%		把握の時期	令和2年3月																																																							

2. 所管課の1次評価

事業コード (R2-建-新-04)
 箇所名 (横手市大森町八沢木)

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	○ 土石流が発生した場合、人家のほか、避難所(公民館)も被災することから、八沢木地区周辺の住民の避難が困難となるため、事業実施の必要性は高い。 ○ 砂防法第5条により工事の施行は都道府県が行うものと位置付けられている。	23点
緊 急 性	○ 当該溪流では、平成29年7月豪雨により溪床に不安定土砂や流木が堆積しており、今後の豪雨等により土砂災害をもたらす恐れがあるため、早急な整備が必要である。	32点
有 効 性	○ 砂防設備を整備することにより、土砂災害から人命や財産が守られ、下流域の安全性が確保される。 ○ 土石流危険渓流に対する整備率向上に直接寄与する事業であり、施策目標への貢献度は高い。 ○ 土砂災害防止法に係る基礎調査の結果を踏まえ、土砂災害特別警戒区域、警戒区域に指定済みであり、横手市においてハザードマップにも位置付けるなどソフト面での対策も併せて実施している。	10点
効 率 性	○ 事業の費用便益比は2.08であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 2.60 億円 ・総便益の現在価値 5.41 億円 ○ 事業実施においては、残存型枠使用によるコスト削減等の検討を行う。	15点
熟 度	○ 昨今の集中豪雨による各地の被害や、土砂災害防止法による土砂災害警戒区域の指定を受け、横手市の防災意識が高く、砂防えん堤の必要性を強く認識している。 ○ 地元自治会から、土石流対策の早期実施について要望書が提出されている。	10点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III)	90点
	多くの項目において評価点が高く、住民の生命・財産だけではなく、避難所を保全するため必要性が高い。	
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留	
	評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
/	

4. 財政課長意見

意見内容	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
/	

5. 最終評価 (新規箇所選定会議)

総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

計画的な実施に努める。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 砂防事業

事業コード (R2-建-新-04)
箇所名 (横手市大森町八沢木)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	災害発生時の影響(被害想定)	人家戸数	20戸以上	10	3	・ 人家3戸	
			5戸～19戸	7			
			1戸～4戸	3			
			0戸	0			
	公共・公益施設	以下に挙げる公共・公益施設がある 要配慮者利用施設 重要交通(緊急輸送道路、避難路、鉄道等) 防災拠点(警察、消防、役場等) ライフライン施設(電力、ガス、水道等) 利用者多数(学校、駅舎等)		10	10	・ 防災拠点(避難所(公民館))	
			公共・公益施設がある	5			
			なし	0			
	事業の必要性						
	流域の整備状況	砂防設備の整備状況	未整備	5	5	・ 未整備	
			低い(土砂整備率30%以下)	3			
			低い(土砂整備率30%超)	1			
	計			30	23		
	緊急性	災害実績	過去の災害発生履歴	過去に災害の発生した記録がある	10	10	・ H29年7月集中豪雨
				過去に災害の発生した痕跡や情報がある	5		
なし				0			
災害発生の危険度		想定される流出土砂量	1000m3以上	7	7	・ 計画流出土砂量2,320m3	
			1000m3未満	3			
想定される流出流量		20m3以上	6	6	・ 計画流出流量92m3		
		20m3未満	3				
荒廃面積		河床堆積、溪岸侵食状況	流域面積の10%以上	6	3	・ 荒廃率0.2%	
			流域面積の10%未満	3			
河床堆積、溪岸侵食状況		破砕帯、火山噴出物地帯、花崗岩地帯、第三紀層地帯 その他		6	6	・ 第三紀層	
			3				
計			35	32			
有効性	上位計画への貢献	ふるさと秋元元気創造プラン	プランに関連する事業である	5	5	・ 「県土の保全と防災力強化」を推進する事業	
			プランとは別の個別計画に関連する事業である	3			
			プラン、個別計画に関連しない事業である	0			
	ソフト対策との関連性	公表周知している情報の内容	土砂災害防止法に係る基礎調査	5	5	・ 土砂災害警戒区域・特別警戒区域指定済み	
			土砂災害危険箇所マップ等	3			
計			10	10			
効率性	費用対効果	B/C	1.0以上	10	10	・ B/C=2.08	
			1.0未満	0			
	事業実施コストの縮減	コスト縮減の具体的計画	あり	5	5	・ 残存型枠施工等の採用を検討し、縮減を図っていく	
			なし	0			
計			15	15			
熟度	事業着手の熟度	地元のニーズ	要望あり	5	5	・ 地元からの要望有り	
			なし	0			
	関係自治体等との合意形成	合意形成が済んでいる 合意形成がなされる見込みである 合意形成がなされていない	合意形成が済んでいる	5	5	・ 自治会との合意形成済み	
			合意形成がなされる見込みである	3			
			合意形成がなされていない	0			
計			10	10			
合計				100	90		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	判定ランクIであり、事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		